



令和7年5月30日

認定こども園

東野田ちどり保育園

東野田ちどりキッズ・庁舎内

江川 永里子

はじめのいっぽ

令和7年度
6月号

10度目となるツバメの里帰りは、勢い良くひなが成長し、巣立ちました。
エサをもらうひなの様子はいつ見ても可愛いく精一杯の親鳥の子育てを感じる瞬間です。

「自然」からの学びは魅了されるものがあります。

屋上の小さな畑には、夏野菜（とうもろこし・なす・とまと・きゅうり・すいか）が
スクスクと大きくなりました。今から収穫が楽しみです。自分達が育てた野菜が
調理されて食べる時、その野菜が身体にどのような働きをするのかもしっかりと
伝えていこうと思います。「何を食べるか？」

大切な身体作りの基本について

少しずつ伝えていきたいと思います。



～ アドラー より ～

さらに子どもの話を聴く

5.開いた質問を使う

質問には「はい」「いいえ」で答えられる＜閉じた質問＞と、「はい」「いいえ」だけでは答えられない＜開いた質問＞とがあります。このうち、開いた質問は、人の話を聞くときに、とても便利です。

開いた質問とは、5W1H といって、「いつ？」「どこで？」「だれが？」「なにを？」「なぜ？」「どんなふうに？」というようなことばを使った質問です。ただし、このうちで「なぜ」はあまり使わない方がいいでしょう。

5W1H の他に、「それで？」「それから？」「もう少し話してくれる？」というような言い方も、開いた質問の一種です。

また、「どういうことがあった？」「どう考えた？」「どう感じた？」「どうしようと思う？」というような開いた質問を続けて使うと、子どもを援助する効果が大きいことがあります。

6.子どもの考えを推量する

＜閉じた質問＞は、子どもの考えを聴くためよりは、むしろ、こちらの考えを子どもに伝えるために使います。たとえば、「あなたは～と考えているのかな？」とか「あなたは～と感じているのかな？」というように。

もしこのような推量が当たっていると、子どもは「親は私の仲間なんだ」と感じて勇気づけられるでしょう。あるいは、言われてはじめて自分がそんなふうにいることに気がつくかもしれません。そうすると、自分の考えをまとめることができます。

もしこのような推量はずれていると、子どもは「違うよ」というでしょう。これは、子どものほんとうの考えを聴くきっかけになりますし、親子間の理解が深まるきっかけにもなります。

7.あなたの考えを伝える

子どもの話をじゅうぶんに聴いてからであれば、あなたの考えを伝えることもできます。できれば、「私の考えを言ってもいいかな？」と尋ねて、子どもが聞きたいと言ってから言うのがいいと思います。「聞きたくない」と言われれば、引き下がる勇気を持ってください。

子どもがあなたの意見を聞きたいと言ったときも、「それは～だ」と事実として言うよりも、「私は、それは～だと思う」というように、意見であることがわかるように言う方がいいと思います。